

スポーツを通じた地域活性化-伊勢市スポーツコミッションの事例-

スポーツマネジメントゼミナール 1314039 谷口 昂大

1. 研究動機・研究目的

2017年4月より第2期スポーツ基本計画が開始され、様々な施策が計画的に実行されていくものと思われる。そのスポーツ基本計画の中に、スポーツツーリズムの活性化とスポーツによるまちづくり・地域活性化の推進が主体である地域スポーツコミッションの設立を推進する内容が記載され、注目されている。実際に、いくつかの地域では既にスポーツコミッションが設置されているが、全国的に見ればまだまだわずかではある。同時に、特に地方においては、急速な少子高齢化・人口減少に直面しており、各地域の事情に合った地方活性化の施策が必要となっている。

以上のような状況の中、2018年に「全国高等学校総合体育大会」、2021年に「第76回国民体育大会」を控える三重県では、スポーツを取り巻く環境が大きく変化してきている。スポーツを通じた地域活性化は三重県でも重要な課題である。

その三重県の中でも伊勢志摩は、2016年に、国内外から注目を浴びた「伊勢志摩サミット」が開催されたことや、昔から全国からの参拝者が絶えない伊勢神宮の存在の影響で、観光地として注目されている。その一つの都市である志摩市には既にスポーツコミッションが設置されているが、もう一方の伊勢市にはまだ存在していない。

本研究の目的は、全国のスポーツコミッションにおける現状、スポーツコミッションが地域活性化に与える影響を明らかにすること。さらに伊勢市の現状を明らかにし、スポーツコミッションを設置した場合に伊勢市という町がどう活性化されるかを考察することである。

2. 研究方法

本研究では、スポーツを通じた地域活性化に関する記事を用いた文献調査と市のスポーツ課や観光課、観光コンベンション機構、スポーツコミッションに対して、質問項目に沿ってインタビュー調査を実施した。

1) 文献調査

文献研究では全国のスポーツコミッションの所在、設置状況、設立の目的などについて、ウェブ上の記事や全国に83個存在するスポーツコミッションすべての公式ホームページなどから情報を収集し、地域別、組織規模別、設立年度別、目的や事業内容別の所在に分けて分析を行った。

(1) 調査期間：2017年9月15日～10月15日の1カ月間行った。

(2) 分析方法：内容分析を用いて収集した文献を分析した。

2) インタビュー調査

(1) 調査対象者：伊勢市のスポーツ課の職員1名、観光課の職員1名、伊勢志摩観光コンベンション機構の職員1名、志摩市スポーツコミッションの職員1名の計4名であった

(2) 調査期間：2017年7月28日～9月15日の約2カ月間で計2回行った。

(3) インタビュー方法：事前に用意した質問項目に沿って、45～90分程度のインタビュー調査を1対1または1対3で実施した。

(4) 分析方法：インタビュー調査後に文字化し、その文字化されたインタビューの内容は、質問内容ごとに分類作業を行った。複数回にわたり各項目の内容を簡略化することで内容を要約し、それぞれの組織間において共通項や相違点などのキーワード探索を試みた。具体的なデータ分析として、グランウンデッド・セオリーアプローチ（Grounded Theory Approach：以下GTA）を援用した。

3. 主な結果と考察

伊勢市の場合は市民のスポーツ振興とスポーツツーリズムによる誘客のバランスを重要視している。さらに、スポーツコミッションを設立しなくても体育協会という大きな組織の中で各競技団体が市民のためのスポーツの機会の提供などによる市民のスポーツ振興、大会や合宿の誘致、スポーツイベントの開催などによるスポーツツーリズムを組織ごとに行われているという現状がある。そのため現段階では伊勢市にはスポーツコミッションは必要ではないと考えられる。

しかし、伊勢志摩スポーツコミッションを設立することにより、両市の特徴や強みを活かした事業展開が可能になり、両市のさらなる活性化につながると考えられる。伊勢市は各競技団体との強い繋がりの中で、施設の充実や状況に応じた補助金制度を活かしたスポーツ誘客が可能であり、志摩市は民間企業との連携を通じたエコロジカルスポーツによるスポーツ誘客が可能である。このように隣接する市でも取り組みや強みは全く違う、その中で伊勢志摩スポーツコミッションを設立し、地域スポーツの窓口と責任体制をワンストップ化することで全国的にも先進的な組織となりえるのではないかと考える。

仮説であった、将来的に伊勢市にスポーツコミッションが設置され、伊勢市スポーツコミッションを中心としたスポーツ振興が図られるはM-GTAによる分析を通して正しかったと考える。

4. 結論

伊勢市は現状として各競技団体が確立した取り組みを行っていることからスポーツコミッションを設立する必要はないとしているが、将来的には志摩市との連携により広域的な取り組みを行うことにより、両市のさらなる活性化を図ろうとしていることが明らかになった。しかし、各地域の文化や歴史、取り組みの違いにより、決してスポーツコミッションの設立がすべての地域に対する最善策ではないということも明らかになった。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を作成するにあたり、何度も適切な助言、また、丁寧な指導をして下さった小笠原先生には深く感謝を致します。また、お忙しい中でインタビュー調査に丁寧な御対応、御協力して下さいました伊勢市のスポーツ課、観光課の職員の2名、伊勢志摩観光コンベンション機構の職員1名、志摩市スポーツコミッションの職員1名、4名の方に深く感謝の意を表します。ありがとうございました。